

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502165		
法人名	有限会社ライフ케어アイ		
事業所名	グループホームらいふ敬愛(パンジー)		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条5丁目4番8号		
自己評価作成日	令和3年1月29日	評価結果市町村受理日	令和3年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0170502165-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にゆったりと楽しく笑顔の絶えない住まい作りを目指しています。利用者様がこれまで経験されてきたと思われるひな祭りやお彼岸のおはぎ作りなど季節の行事を大切に行いながら利用者様にとっての生きがいや楽しみ、安心してくつろげる事を模索し、ホームの名前でもある「人生の先輩として尊敬し愛する」心を全職員が持っています。また、ホームで看取り介護もさせて頂く機会もあり、ご本人・ご家族の思いや介護職の責任の重さを感じながら最後まで安心して暮らして頂けるよう日々ケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームらいふ敬愛」は閑静な住宅地に位置し利用者の人生を敬い愛する精神を根幹に据え運営を行っている。施設内は中庭や和室、回廊、木のベンチ、床暖房等が設置され居心地よい生活環境であり、全体的に清潔感がある。これまで多くの看取りに尽力しており昨年は3名の利用者の最期の人生を見送るに至っている。今年度は様々なことが自粛であるが、例年、地域との普段着の付き合いを始め歌の会でのボランティア訪問、花菖蒲園やイルミネーション見学に出かけるなど時々家族の参加を得て行っている。昨今は感染症対策を講じつつ近隣や公園への散歩により四季の移ろいや子どもたちの姿に触れたり、コンビニエンスストアでの買い物、ドライブスルーなどの機会を設け、室内でも体操や作業療法的手仕事を取り入れられている。また、生活歴を活かし茶会やマスク作り、書道、台所仕事、飾り付けなど本人の持っている力の継続や再び発揮できる丁寧な環境作りなど毎日の生活に結びつけ実施している。趣味の再構築で帰宅の訴えが和らいだり、足腰が弱り車椅子依存であった利用者が自力で歩行器移動が可能になり結果、昼夜逆転が治るなど適切な計画と介護力も高く評価できる。開設当時から入居し茶寿を迎えた利用者の祝賀が昨年行われた。職員は利用者の声には手を止め耳を傾け、また1人ひとりの人生を考え尊重する姿勢を忘れないと述べている。利用者の喜びや幸福感が敬愛の輪により育まれている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症が進んでも、その人らしく生活していく」という理念を実践していけるよう、理念をホールに掲示、名札の裏に入れ、理念に基づいた月間目標をたてて共有し実践に努めている。	「利用者の人生を敬い愛する精神」を根幹とする4項目の運営理念を標榜している。理念は要所へ掲示している。職員間で毎月話し合い理念を具体化した月間目標を立て実践に努めている。自由と尊厳の保持は日々の暮らしの中で保障されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為頻度は減っているが、散歩の折にはご近所の庭先の花を楽しみ、逆にホームの花壇の手入れもして下さるなど交流を図っている。	事業所花壇の手入れや冬囲いに住民の協力がある。今年度は自粛であるが、毎月歌の会にボランティアの訪問があり月寒神社祭には事業所前に山車が止まってきている。公民館での認知症の一人歩き見守り訓練に事業所と地域住民と一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資源回収の協力や近所の散歩や買い物、運営推進会議を通じ認知症の理解や支援方法を相談している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	パソコンやらいふ便りを見て頂きながら行事報告や認知症介護の取り組みを報告している。近隣の方や包括職員、民生委員、ご家族のアドバイスを受けながらサービス向上に繋がるよう務めている。今年度はコロナ禍の為書面会議を行っております。	令和2年5月より書面会議を実施し家族等の関係者へ事前に意見を募り、運営会議後は会議録を送付している。今年度は感染症対策や運営状況の報告が主である。昨年度は地域・ボランティアとの連携状況や身体拘束適正化委員会について報告し協議されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は市・区役所の担当者と連絡を取り相談している。市の管理者会議や集団指導などで情報を得ている。	今年度の集団指導はインターネット配信にてケアプラン・福祉用具・防災・ヒヤリハット等の指導や情報を得ている。市からは感染症対策のメール、区とは介護保険更新時における書類のやり取り等を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、身体拘束をしない介護を目指している。事務所の壁に禁止行為を掲示し、スピーチロックについて日頃から話し合うようにしている。身体拘束適正化委員会を定期的に開催し職員に周知している。	身体拘束廃止に関する指針を定め、3か月に1度身体拘束適正化委員会を開催し内容を職員へ周知している。年2回内部研修を実施し、新入職員用マニュアルも整備している。車椅子自走時等に安全ベルト装着の利用者には(好きな時に好きなように好きな場所への考えのもと)適正化に係る経過観察を実施している。夜間帯のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や報道等があった時など職員間で話し合いをしている。あざなど皮膚トラブルを発見した時は皮下出血報告書に記入し原因や解決策を話し合い再発防止に努めている。		

グループホーム らいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もおり、研修などで職員と制度を理解しご家族から相談を受けた時は随時対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書及び重要事項説明書について説明し同意を得ている。不安や疑問点がないか尋ね、分かりやすい説明をするよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	らいふ便りを毎月発行し、運営推進会議や来訪時に近況報告を行っている。SNSやメールでも気軽にご意見いただけるよう周知し運営に反映させている。	自肅中の昨今、利用者からは外食したいなど忌憚のない意見が上がりドライブスルー外食に取り組み対応している。現在家族へは毎月事業所便りを送付し、電話、SNS、メールでやり取りを行っている。家族の意見を貴重なものとする実直な姿勢が窺われる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や個人面談を行い、代表者や管理者は日常的に意見交換を行っている。職員が代表者、管理者に意見を伝えやすい環境づくりを意識している。	代表者や管理者、介護支援専門員は必要時等に職員個々と面談し、日常的に意見や情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整している。感染症対策では自動消毒装置が玄関へ設置となるなど職員意見が反映されている。通信や物品係など各分掌に職員が所属している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表・管理者は個々のやりがい等の把握に努め、給与に反映するなど働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に行い、外部研修やネットを活用した研修を取り入れスキル・知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・区の管理者連絡会等コロナ禍の為開催されていないが、感染対策などの取り組みなど近隣のホームと意見交換を行っている。入居の問い合わせがある時は豊平区管理者連絡会で発行している空き情報や金額等情報提供に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報を基に面談時に困っていることや不安な事を話しやすいよう、ゆったりと傾聴できる時間を設け信頼を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴や前サービス等の情報を元に、ご家族と相談し安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意見を取り入れ、職員で相談しながら必要な支援が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に沿い、人生の先輩として敬いながら共に暮らす事の出来る関係を築いていけるよう努めている。利用者様から職員に「少し休みなさい」や出勤時に「おかえりなさい」と声をかけてくれるなど信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナ対策のためご家族にも緊急時以外の面会自粛をお願いしているため、ご家族に定期的に電話し生活状況をお伝えしている。SNSやホームページに行事の様子を載せて遠方のご家族にも共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と協力しながら知人・友人の面会や電話や年賀状、絵手紙など季節のあいさつを交わされるよう努めています。ご入居者様から希望があり、感染対策を行いドライブスルーで購入し外食するなど支援に努めている。	感染対策上、友人や知人、家族との墓参や一時帰宅などは自粛となっている。豊平川花火大会の動画で風物を思い出してもらったり、職員が本人の好きな趣味事や馴染みだった地域の話をするなどしている。現在、リモート面会の支援に向け動き出ししている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう職員が間に入り会話や食事、家事を楽しめるよう支援しています。起床時や食事の時間もなるべく利用者様同士顔を合わせ挨拶を心かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でもいつでも相談を受け入れることを伝えている。代表は電話や年賀状などで交流を続け、これまでの関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを多く持ち、職員同士情報を共有し思いを汲み取るよう努めている。意思を上手く伝えられない方はご家族からの情報や表情、行動など観察し思いを汲み取るよう努めている。	家族の協力のもと、センター方式にて生活歴の情報を得ている。職員は利用者の言動の背景に思いを寄せ本人の視点に立って意向等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を記入して頂き、本人やご家族の会話から趣味や生活歴など情報を得られるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活日誌、業務日誌、健康管理表、往診記録、連絡ノートを活用し入居者様の現状の把握に努め、毎日の申し送りやミーティングを通じて職員との共通認識に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時にアセスメントを行い、本人、家族、医師の意見を取り入れケアプランを作成している。	毎月ミーティングで課題を話し合い今後のより良い支援を検討しつつアセスメントを行っている。課題分析概要は6か月ごとに更新し関係者間の意見を反映させた介護計画を作成している。利用者担当職員がモニタリングシートに取り組む事としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子や会話、サービス内容を生活日誌に記載し、ケアプランとの連動に努めている。毎月課題や問題点を話し合い、質の良い支援ができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族と相談しながら柔軟にニーズに対応したサービスを提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	童謡の先生や演歌歌手のボランティアの方に協力していただくなど、利用者の好みや希望に沿った支援に務めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携先の往診を2週間に1回受けて頂き、内科以外の通院は家族と事業所が通院支援を行い、適切な医療を受けられるよう支援しています。	内科は2週に1度、歯科医は必要時に往診が得られる体制であり、他科受診は通院にて行っている。週に1度訪問看護師が健康チェックに訪れ、適切な医療につながるなど連携が図られている。受診歴は個別に分かりやすく記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師による健康チェックを受けており、日々の情報の共有や相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、お見舞いも兼ねて入院先の担当者と情報交換し早期退院に向けて病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し身体状況が変化した場合、主治医、家族を交えて十分に話し合いを行っている。職員、医師、看護師、家族ともに協力しご本人に寄り添った支援を行っている。	利用契約時に重度化に関する指針、看取り介護についての文書を説明し、医師の判断がなされた際にはあらかじめ関係者全員で今後の方針を取り決めている。今年度は3名のターミナルケアに尽力している。職員は終末期支援に取り組み対応力や研鑽を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し対応の流れを確認している。都度医師、看護師に相談・指示を受けながら対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間の火災を想定した避難訓練、地震を想定した訓練を行っています。消防設備業者、地域住民宅と火災通報装置を連動し協力体制を築いている。カセットコンロ、水、食材や発電機、ストーブを備蓄している。	令和1年9月・2年8月に夜間・火災想定避難訓練を実施し、併せて震災時の役割分担、マニュアルの見直し、搬送方法の確認、防災用品(発電機取り等)の確認を行っている。災害備蓄品を確保している。	停電・地震時の対応策の強化、また避難所生活を想定した対策について検討する意向であるので、その取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様を「敬い愛する」気持ちを常に持ち、言葉使いやプライバシーに配慮した対応、声かけをするよう務めています。	「敬い愛する」という理念がケアの中に浸透しているため日常的な言葉かけはもちろん、利用者の自己決定する力を信じ言葉かけを工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の中で希望を探ったり、自己決定できるような声かけを意識して行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に配慮しながら一人一人のペースに合わせ希望に沿うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用。毎日着る服を相談したり、化粧品を購入を家族と協力し、化粧を毎日行えるよう支援しています。		

グループホーム らいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った料理を利用者と相談しながら献立を作成している。ホットプレートを使い、皆で食事・おやつ作りに参加できるように支援している、	メニューは職員が1週間交代で作成し多様になるように工夫しており、利用者がその時期に食べたいものを美味しく食べられることを大事にしており、全て施設内で手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量、体重は日誌、健康管理表に記入し情報を統一している。一人一人の状態や能力に応じた好みの物や食事形態、食器の工夫を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状況に応じて見守り、介助しています。担当の訪問歯科医や訪問歯科衛生士に助言を頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌に排泄パターンを記録し、職員間の情報共有に務めている。紙おむつに頼らないよう声かけのタイミングや失禁用下着などを使用し排泄の自立に向けた支援を行っています。	健康管理表に排泄状況を記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握しケアに活かしている。便秘予防のためにお茶や乳酸菌食品を積極的に取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳、ヨーグルトを提供し、体操や散歩など運動する機会を作っている。腹部マッサージや水分調整など下剤に頼らないよう工夫と予防に務めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の嫌いな方には声かけを工夫し、その時々希望や体調により臨機応変に対応できるよう毎日入浴できる環境にしています。	希望に合わせて入浴できるように入浴回数を決めている。入浴を拒む場合は言葉かけや対応を工夫し入浴時には爽快感が得られリラックスできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調、気分に合わせて休んで頂いています。昼夜逆転にならないよう家事や他利用者様と楽しんで、安心して就寝できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を活用し理解するよう務めている。薬の変更があった時は日誌・健康管理表に記入し症状の変化を医師・看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や書道、飾りつけなど季節の行事や家事仕事など一人一人が楽しみ得意分野を活かせるよう支援しています。		

グループホーム らいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(パンジー)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出は控えていますが、暖かい日は近所の散歩で庭先の花や公園で保育園の子ども様を楽しみ、社用車で外食やイルミネーション見学に出かけ、地域の方と協力しながら外出支援を行っています。	暖かい時期には感染予防に注意しながら近所のコンビニエンスストアへの買い物に出かけることもある。感染症流行以前は近所の公園に出かけたり、車で公園やイルミネーションを見に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ホームで管理させて頂いている。買い物時やお孫さんにお小遣いをお渡しすることもあり個々に合った支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由に電話できるよう支援しています。遠方のご家族や親戚から品物が届いた時はお礼の電話をかけて頂いたり毎年賀状を出せるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には季節に合わせた手作りの作品や写真を掲示し話が弾むよう工夫をしています。年2回業者による清掃とワックス掛けを行い、床暖房、クーラー、加湿器を使用し快適に過ごせるよう調整しています。	清潔感を常に感じられることを大事にしており清掃が徹底されている。回廊式の廊下の数か所に木のベンチや畳の小上がりがあり、ゆっくり過ごせるようになっている。壁飾りを毎月手作りし季節感を感じられる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に木のベンチを設置し、ソファや食卓テーブルで思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアは引き戸で背の高低差を解消した取手を設置している。馴染みの家具や仏壇、好みの絵や写真を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	居室にはベッドが備え付けられているが、家具や写真を持ち込み馴染みの環境と思えるよう工夫している。趣味活動のための道具を持参している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置し、安全に歩けるようにしている。居室には表札、トイレ前にポスターを掲示し場所が把握できるようにして自立した生活を送れるよう工夫しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502165		
法人名	有限会社ライフ케어アイ		
事業所名	グループホームらいふ敬愛(カトレア)		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条5丁目4番8号		
自己評価作成日	令和3年1月29日	評価結果市町村受理日	令和3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にゆったりと楽しく笑顔の絶えない住まい作りを目指しています。利用者様がこれまで経験されてきたと思われるひな祭りやお彼岸のおはぎ作りなど季節の行事を大切に行いながら利用者様にとっての生きがいや楽しみ、安心してくつろげる事を模索し、ホームの名前でもある「人生の先輩として尊敬し愛する」心を全職員が持っています。また、ホームで看取り介護もさせて頂く機会もあり、ご本人・ご家族の思いや介護職の責任の重さを感じながら最後まで安心して暮らして頂けるよう日々ケアに取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0170502165-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年2月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの見えやすい所に掲示し、理念の共有に務めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の資源回収に協力に参加し、ホームの花壇の手入れをしていただくなど交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的開催し、認知症介護についての理解や支援状況を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議定期的に開催し、日頃の様子を報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて管理者が相談、報告を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを使用し施錠は行っていない。拘束を行わないケアを目指し、定期的に身体拘束適正化委員会や研修、日頃から話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、研修の参加やミーティング時の意見交換を行なっている。		

グループホーム らいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方もおり、勉強会を通して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者が説明を行い、理解・納得していただけるよう務めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、ご家族が来訪された際は近況報告を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や連絡ノートを活用し、代表や管理者は日常的に意見交換を行ない、職員が意見を提案しやすい環境作りに務めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を活用し向上心を持って働けるよう務めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を都度掲示し、参加の呼びかけを行っている。研修費や勤務調整を行い参加しやすいよう務めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れや他ホームに見学・実習の協力を得るなど近隣のホームと交流を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、利用されていた事業所からの情報をもとに、困っている事や、不安な事を聴き信頼関係を築けるよう務めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族への負担や不安を取り除けるようご本人の日常の様子などを説明しご家族が要望を言いやすい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を職員と話し合い、思いを取り入れた支援ができるよう務めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で何気ない会話をしながら安心した暮らしを過ごし、支え合う関係を築けるよう務めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月たよりを発行して様子を伝え、誕生日会の参加や外出支援など共に支えていく関係を築くよう務めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会が制限されることもあり、電話でお話する機会を増やし、関係が途切れないよう支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士やスタッフも間に入りながら孤立しないで笑顔で会話ができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後でもいつでも相談を受け入れることができる事を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を大切に、出来る限り希望に沿うよう職員や家族と話し合い検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やご家族にセンター方式の情報を記入して頂き、本人、家族からの会話から生活歴など情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活日誌 業務日誌 健康管理表 連絡ノートを活用し職員間で情報共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにおいて意見交換を行い、本人、家族、医師と相談しながら現状に即したケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話やサービス内容を記入しケアプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて訪問診療、歯科、マッサージなどご家族と相談して取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで歌の会を毎月開催し、日々の暮らしを楽しんでいただけるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医と相談し、入居後は往診医に診て頂きながら必要に応じてかかりつけ医に受診するなど適切な医療を受けられるよう支援しています。		

グループホーム らいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師による健康チェックを受け、日々の状況や気になる事など相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、お見舞いも兼ねて入院先の担当者や連携を取るよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の方向性を確認し、身体状況が変化した時は主治医、家族を交えて話し合いをして方針を職員間で共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し対応の流れを事務所内に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い消防設備業者から消防設備の説明を受けている。地域住民宅と火災通報装置を連動し協力体制を築いています。必要な備蓄品の準備も都度行っています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者を「敬い愛する」気持ちを常に持ち、言葉使いやプライバシーに配慮した対応、声かけを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声かけでゆっくりと話し、自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮し、本人のペースに合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の利用や本人の好みに合わせたおしゃれができるように努めています。		

グループホーム らいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と日常会話の中から献立を考え、行事や季節に合ったメニューを取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状態に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い状況に応じて訪問歯科受診を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ回数、排泄内容を日誌に記録し職員間で情報共有しトイレの声かけを行いトイレでの排泄支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ごぼう茶や乳製品を毎日摂るようにしている。水分摂取量に気を配り、午前中に体操をするなど便秘予防を支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調に合わせて安全にリラックスして入浴できるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活、体調に合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を活用して理解するように努めている。薬の変更があった時は高等、連絡ノートを使い、医師・看護師と相談しながら症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみや行事を職員、利用者と相談し気持ち穏やかに過ごせるよう支援しています。		

グループホーム らいふ敬愛

自己評価	外部評価	項目	自己評価(カトレア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出の支援はできていません		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム・家族で管理しており、希望がある時は使用出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や本人の希望があった時は取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖・クーラー・加湿器など季節に沿って快適に暮らせるよう工夫している。トイレや居室の表示を分かりやすくし、季節感を取り入れた飾りやカレンダーを掲示しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを用意しており、テレビ視聴や談話をしやすく出来るよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	引き戸にて開閉しやすく、本人が過ごしやすい様に馴染みの物を家族と相談しながら用意しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置し、フロアにベンチが3箇所あり、安全な歩行を保てる様配慮している。居室には表札、トイレ前にポスターを掲示し場所が把握できる様にして自立した生活を送れるよう工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームらいふ敬愛

作成日：令和 3年 2月 23日

市町村受理日：令和 3年 2月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防火・防災訓練でホームから避難するところまでは行っているが、避難所までの移動や避難所での生活を想定した訓練が不足している。	避難所の生活を想定したマニュアルの整備と訓練を行う。	避難所生活に必要なと思われる物品をリストアップ・購入すると共に避難所生活の情報収集とマニュアルの整備、シミュレーション・訓練を行う。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。